

平成29年度 山形県病院事業会計決算の概要

平成30年7月
病院事業局

1 決算の概況

- 平成29年度の病院事業会計決算は、総収益が392億4,100万円、総費用が383億700万円となり、9億3,400万円の黒字となった。
- 経常収支については、入院収益、外来収益の増加により、経常収益が前年度比10億4,000万円増の378億8,200万円となったが、給与費、材料費等の経常費用が382億600万円と収益を上回り、3億2,400万円の赤字となった。
- 特別損益については、退職給付引当金期末残高の減少に伴う引当金取崩益が生じたことなどから特別利益が前年度比9億9,600万円増の13億5,900万円となり、差し引き12億5,800万円の黒字となった。
- 減価償却費等の現金移動を伴わない経費や収益を除いて、さらに資本的収支補填額等の損益計算外の費用を差し引いた実質収支（資金収支）は、前年度比で2億3,700万円改善したものの、16億1,200万円の赤字となった。

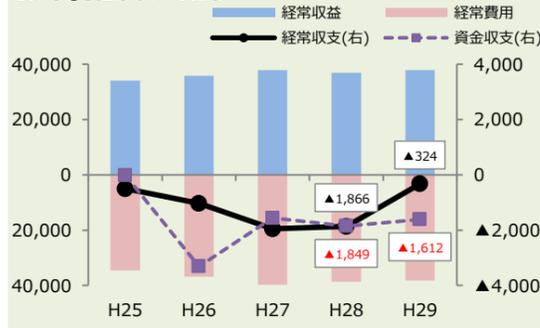
		(単位：百万円)		
		29年度	28年度	対前年
総収益	A	39,241	37,205	2,036
経常収益	C	37,882	36,842	1,040
医業収益	E	31,402	30,167	1,235
医業外収益		6,480	6,675	▲195
特別利益	G	1,359	363	996
総費用	B	38,307	38,751	▲444
経常費用	D	38,206	38,708	▲502
医業費用	F	36,571	37,043	▲472
医業外費用		1,635	1,665	▲30
特別損失	H	101	43	58
医業収支	E-F	▲5,169	▲6,876	1,707
経常収支	C-D	▲324	▲1,866	1,542
特別損益	G-H	1,258	320	938
総収支	A-B	934	▲1,546	2,480

主な増減の要因

入院収益+681、外来収益+522
一般会計繰入金+254、長期前受金戻入▲398
退職給付引当金取崩益+844

退職給付費▲1,051、材料費+552、減価償却費▲491

【参考①】経常収支の推移



経常収支と資金収支について

病院事業会計では発生主義を採用していることから、損益計算書上の経常収益と経常費用の差引である経常収支の額と、実際の現金の差引である資金収支の額は一致しません。平成29年度は、退職手当に係る一般会計負担のルール変更（負担区分の明確化）に伴い、退職給付引当金に引き当てていた給与費（退職給付費）が減少したため、経常収支は15億4,200万円の改善となりましたが、実際の現金の差引である資金収支では2億3,700万円の改善となっています。

2 収益の状況

(1) 入院

- ・入院収益は、患者延数の増加と診療単価の上昇に伴い、全体で6億8,100万円増加した。
- ・患者延数は、新庄病院を除く3病院で増加し、全体で7,371人増加した。
- ・診療単価は、河北病院とこころの医療センターで減少したものの、中央病院と新庄病院で増加し、全体で713円増加した。

	入院収益 (百万円)		患者延数 (人)		新患者数 (人)		平均在院日数 (日)		診療単価 (円)	
		対前年		対前年		対前年		対前年		対前年
中央	13,551	619	195,882	6,145	15,804	249	11.4	0.2	69,179	1,020
新庄	5,001	39	115,321	▲214	6,777	▲35	16.0	0.0	43,367	416
河北	1,943	4	50,102	581	2,683	▲123	17.6	0.9	38,782	▲363
こころ	1,626	19	69,985	859	514	4	136.0	1.1	23,233	▲18
全体	22,121	681	431,290	7,371	25,778	95	15.7	0.2	51,290	713

(2) 外来

- ・外来収益は、患者延数の増加と診療単価の上昇により、全体で5億2,200万円増加した。
- ・患者延数は、こころの医療センターを除く3病院で増加し、全体で10,704人増加した。
- ・診療単価は、河北病院を除く3病院で増加し、全体で639円増加した。

	外来収益 (百万円)		患者延数 (人)		一日平均患者数 (人)		診療単価 (円)	
		対前年		対前年		対前年		対前年
中央	4,925	436	268,176	8,092	1,079	30	18,362	1,104
新庄	1,991	57	186,369	618	761	0	10,681	269
河北	1,118	21	106,314	2,196	434	7	10,520	▲21
こころ	279	8	30,623	▲202	125	▲1	9,114	321
全体	8,313	522	591,482	10,704	2,399	36	14,054	639

【参考②】患者数・診療単価等の推移



3 費用の状況

- ・給与費は、給与改定等の影響で給料・手当・法定福利費が3億3,500万円増加した一方、退職給付費が10億5,100万円減少したこと等により、全体で6億8,300万円減少した。
- ・材料費は、抗がん剤等の高額な医薬品や、手術件数の増加に伴う診療材料の使用増により、薬品費及び診療材料費ともに増加し、全体で5億5,200万円増加した。
- ・経費は、重油価格の上昇に伴う燃料費と光熱水費の増加等により、全体で2億5,000万円増加した。
- ・減価償却費は、こころの医療センターを除く3病院で電子カルテシステム等の償却が完了したこと等により、全体で4億9,100万円減少した。

	(単位：百万円)		
	29年度	28年度	対前年
医業費用	36,571	37,043	▲472
給与費	20,542	21,225	▲683
材料費	8,140	7,588	552
経費	5,362	5,112	250
減価償却費	2,156	2,647	▲491
資産減耗費	91	193	▲102
研究研修費	280	278	2
医業外費用	1,635	1,665	▲30
特別損失	101	43	58
合計	38,307	38,751	▲444

主な増減の要因

給与改定等+335、退職給付費▲1,051
薬品費+376、診療材料費+168
光熱水費+24、燃料費+73、委託料+79
電子カルテシステム等の償却完了
[中央]H28ガンマナイフ除却の反動 (▲88)

企業債償還利息の減

4 資本的収支の状況

- 中央病院では、定位脳放射線治療装置（ガンマナイフ）を更新し、治療可能領域の拡大や治療時間の短縮による患者負担の軽減を図った。また、防犯や患者の安全確保のため、セキュリティシステム及び防災設備を更新した。
- 新庄病院では、X線CT装置を更新し、撮影範囲の拡大や撮影時間の短縮による患者負担の軽減を図った。また、総合医療情報システムの一部を更新したほか、新病院の建設予定地を取得した。
- 河北病院では、オーダリングシステムや医事会計システム等のハードウェアを更新した。また、最上階に設置している高置水槽を更新し、医療用水等の水質を改善した。
- こころの医療センターでは、正面玄関前自動車乗降場に屋根を設置することにより、悪天候時の患者の利便性向上を図った。

(単位：百万円)

■主な建設改良費

- 【中央】
 定位脳放射線治療装置（ガンマナイフ） [H28-29債務負担]
 防災盤更新工事(H28-30債務負担)
 セキュリティシステム設備更新工事(H28-29債務負担)
 冷温水発生機更新工事(H29-30債務負担)
- 【新庄】
 X線CT装置
 改築整備事業用地の取得
 放射線部門システム及び内視鏡システム更新整備業務
- 【河北】
 総合医療情報システム更新等業務
 高置水槽更新工事
- 【こころ】
 玄関前自動車乗降場屋根設置工事

	29年度	28年度	対前年
資本的収入	4,210	3,353	857
企業債	2,539	1,377	1,162
出資金	101	76	25
負担金	1,556	1,900	▲344
固定資産売却代金	0	0	0
その他資本的収入	14	0	14
資本的支出	5,439	4,911	528
建設改良費	2,592	1,418	1,174
企業債償還金	2,847	3,493	▲646
差し引き	▲1,229	▲1,558	329

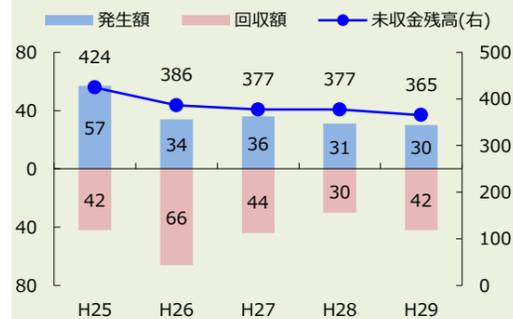
5 貸借対照表

(単位：百万円)

勘定科目	29年度	28年度	対前年
固定資産 計	33,439	33,261	178
現金預金	379	379	0
未収金	5,625	5,355	270
貸倒引当金	▲42	▲49	7
貯蔵品	134	156	▲22
その他流動資産	0	0	0
流動資産 計	6,095	5,841	254
資産 合計	39,535	39,102	433
企業債	26,703	27,157	▲454
リース債務	48	58	▲10
退職給付引当金	12,725	14,608	▲1,883
固定負債 計	39,476	41,823	▲2,347
一時借入金	5,200	4,000	1,200
企業債	2,993	2,847	146
リース債務	22	19	3
賞与引当金	1,266	1,237	29
未払金等	3,523	2,867	656
流動負債 計	13,004	10,970	2,034
繰延収益 計	4,108	4,396	▲288
負債 合計	56,588	57,189	▲601
資本金 計	23,629	23,528	101
剰余金 計	▲40,682	▲41,615	933
資本 合計	▲17,053	▲18,087	1,034
負債資本 合計	39,535	39,102	433

(注) 端数処理の関係上、各科目の合計が合計値と一致しない場合があります。

【参考③】過年度個人医業未収金の状況



【参考④】資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づき算定した資金不足比率については、次のとおりです。

資金不足比率 12.1% (平成29年度)

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業規模}}$$

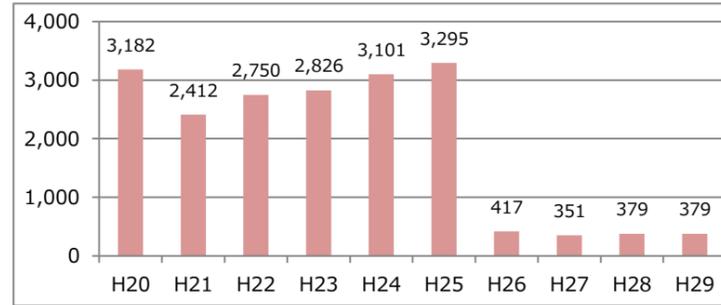
<資金の不足額>
 (流動負債 - 企業債) - 流動資産 = 3,916百万円

<事業規模>
 医業収益(※) = 32,136百万円

※医業収益には救急医療及び保健衛生行政に係る繰入金734百万円を含む

6 キャッシュフロー計算書

【資金残高の推移】



(単位：百万円)

	29年度	28年度
期首残高	379	351
業務活動によるCF	26	▲416
投資活動によるCF	▲918	560
財務活動によるCF	892	▲116
期末残高	379	379

※平成24年度の資金残高には翌年度に繰越した建設改良費約4.3億円の資金を含んでおり、平成25年度の資金残高には翌年度に繰越した建設改良費約13億円の資金を含んでいる。また、27年度より、年度末の資金残高が不足するため、市中金融機関からの一時借入れを行っている。(H27:2,000百万円、H28:4,000百万円、H29:5,200百万円)

7 病院ごとの決算概要

(単位：百万円)

		中央		新庄		河北		こころ	
			対前年		対前年		対前年		対前年
総収益	A	23,298	1,130	8,509	201	4,061	141	3,144	351
経常収益	C	22,604	787	8,374	70	3,900	▲15	2,961	171
医業収益	E	19,074	1,086	7,275	91	3,137	31	1,916	27
医業外収益		3,530	▲299	1,099	▲21	763	▲46	1,045	144
特別利益	G	694	343	135	131	161	156	183	180
総費用	B	22,257	▲53	8,250	▲90	4,588	▲341	2,909	9
経常費用	D	22,232	▲60	8,238	▲88	4,584	▲342	2,849	▲44
医業費用	F	21,055	▲59	8,009	▲92	4,473	▲305	2,736	▲47
医業外費用		1,177	▲1	229	4	111	▲37	113	3
特別損失	H	25	7	12	▲2	4	1	60	53
医業収支	E-F	▲1,981	1,145	▲734	183	▲1,336	336	▲820	74
経常収支	C-D	372	847	136	158	▲684	327	112	215
特別損益	G-H	669	336	123	133	157	155	123	127
総収支	A-B	1,041	1,183	259	291	▲527	482	235	342

中央病院

- 収益は、手術件数や注射収入の増等により入院・外来ともに診療単価が上昇したことや、患者延数が増加したこと等から入院収益・外来収益ともに増加し、全体で7億8,700万円の増加(入院収益・外来収益ともに過去最高)。
- 費用は、医業収益の増に伴い材料費と、重油価格の上昇等により経費が増加した一方、退職給付費、減価償却費、資産減耗費等が減少し、全体で6,000万円の減少。

新庄病院

- 収益は、注射収入や検査収入の増等により入院・外来ともに診療単価が上昇したことや、外来の患者延数が増加したこと等から、入院収益・外来収益ともに増加し、全体で7,000万円の増加(入院収益・外来収益ともに過去最高)。
- 費用は、医業収益の増に伴い材料費と、重油価格の上昇等により経費が増加した一方、退職給付費や減価償却費等が減少し、全体で8,800万円の減少。

河北病院

- 収益は、入院・外来ともに診療単価は減少したものの患者延数が増加したこと等により入院収益・外来収益とも増加した一方、医業外収益が減少し、全体で1,500万円の減少。
- 費用は、材料費や経費の節減に努めたこと、また、退職給付費や減価償却費等が減少したこと等から、全体で3億4,200万円の減少。

こころの医療センター

- 収益は、患者延数の増による入院収益の増と、注射収入や新患者数の増に伴う検査収入の増により外来収益が増加し、全体で1億7,100万円の増加(入院収益・外来収益ともに過去最高)。
- 費用は、薬品費の増による材料費の増と、電子カルテシステムの導入等により経費及び減価償却費が増加した一方、退職給付費が減少し、全体で4,400万円の減少。